

NPO法人そとぼーよ ニュースレター vol.2



2020年10月発行

大丈夫！君たちは何だってできるんだ！

NPO法人そとぼーよ代表理事 本道良子

コロナウィルス感染対策の緊急事態宣言が解除され、息子がいつも遊んでいた仲間たちに「外であそぼうよ！」と声を掛けました。

(息子は小学3年生、いつも品川の冒険ひろばで遊んでいます。) お天気も良く、気持ちのよい1日でしたが、約2か月ぶりに会う子ども達は、どこかよそよそしく、今までのようなエネルギーを感じられません。「何するー?」「ん〜」「やることないなあ...」などと、遊ぶ気力もない様子でした。しばらくすると鬼ごっこなどが始まり、子ども達にほんの少し笑顔が見られるようになりました。みんなが遊び始めると、息子は「夢じゃないよね」といった感じで、確かめるように味わうように、地面の上をごろごろと転がっていました。

リハビリのような1日でした。この日の子ども達の様子を、忘れずに胸に刻んでおこう！強く心に誓いました。私が勝手に感じただけかもしれませんが、でも子ども達の身体から、「**どうせ、自分には何も出来ないんだ**」という声なき声が聞こえた気がしたのです。命を守る為だったとしても、学校にもいけず、自由に外出もできず、友達にも会えない。そしてそれらは、すべて大人が決めたルールでした。そこに対話はありません。

自分が何に困っていて、不安や不満を誰にぶつければいいのかわからなかったでしょう。子ども達のエネルギーが小さくなくても仕方がなかったかもしれません。「**大丈夫！君は君たちは何だってできるんだよ！大丈夫なんだよ!!**」私は叫びたくなりました。はずかしくてできなかったんですけど。だから、その思いを胸に刻んで子ども達の遊びを応援したい。遊びは子どもを癒し、生きる力を育んでくれるからです。

東日本大震災後、「津波遊び」「地震遊び」が子ども達に流行りました。この遊びは抱え込んでいる不安な気持ちを表現しながら、気持ちを整理し心の安定を取り戻して行く癒しのプロセスでした。今の状況下においても子ども達に遊びが必要であることは明白です。

あそんで、あそんで、あそんで、あそんで、俺ってサイコーー！私ってすごーーいっ！ そんな気持ちを子ども達に取り戻して欲しい。

どうか、ご家庭の中で、地域の中で子ども達の遊びを見守って下さい。まだまだコロナ終息の見通しはたっていません。私も子ども達の心を守れるように、自分たちができることは何かを考え続けていきます。



子ども白書2020に
そとぼーよ代表の
本道が寄稿しました！

母親としてこの活動を始めたきっかけやそとぼーよの成り立ちなどを書きました。



スクエア荏原 &
オンラインにて開催

関戸博樹氏
講演会
「あそびは大人に
なるじゅんび」

2020年
12月12日(土)

活動報告

みんなで作る親子ひろば「そとぼ～よ！」

毎週火曜日、しながわこども冒険ひろば内で開催のそとぼ～よ！（NPO法人ふれあいの家-おばちゃんちからの委託事業）と、毎月第2第4金曜日文庫の森にて開催のそとぼ～よ！（品川区地域振興基金を活用した区民活動助成対象事業）の2つの乳幼児親子ひろばを開催しています。

どちらのひろばも参加者が30組を超える日も多く、乳幼児親子の外あそびや、コミュニティの広がり、情報交換や子育て相談、地域とのつながりなどなど、たくさんのことに寄与できる場として順調に育っていました。コロナウィルス感染症の広がりにより、通常開催は2月の末までとし、その後8月までの約半年間、時短開催やオンライン開催など、今までと違う形を工夫して開催しました。

久々に再開したひろばでは、「ずっと家にいたので人見知りがすごく出ています。外での過ごし方も迷うことばかりです。」「久々に他人と話しました。嬉しい。家にずっといると、子どもをどうしても怒りすぎてしまう。」



「水遊びがまったくできない夏でした。ここでできて嬉しいです。」などといった声も聞かれ、大人の緊張や心配が、子どもにも伝わっている印象を受ける場面もありましたが、少しずつ大人も子どもも笑顔が見られ、私たちにも嬉しいひろばが戻ってきました。

生活様式が変わっても大切にしたいもの、変わったから大切になったもの、変わったからこそできることなどを考えつづけながら、場づくりを模索していきます！（駒崎圭子）

オンラインで「うちぼ～よ！」

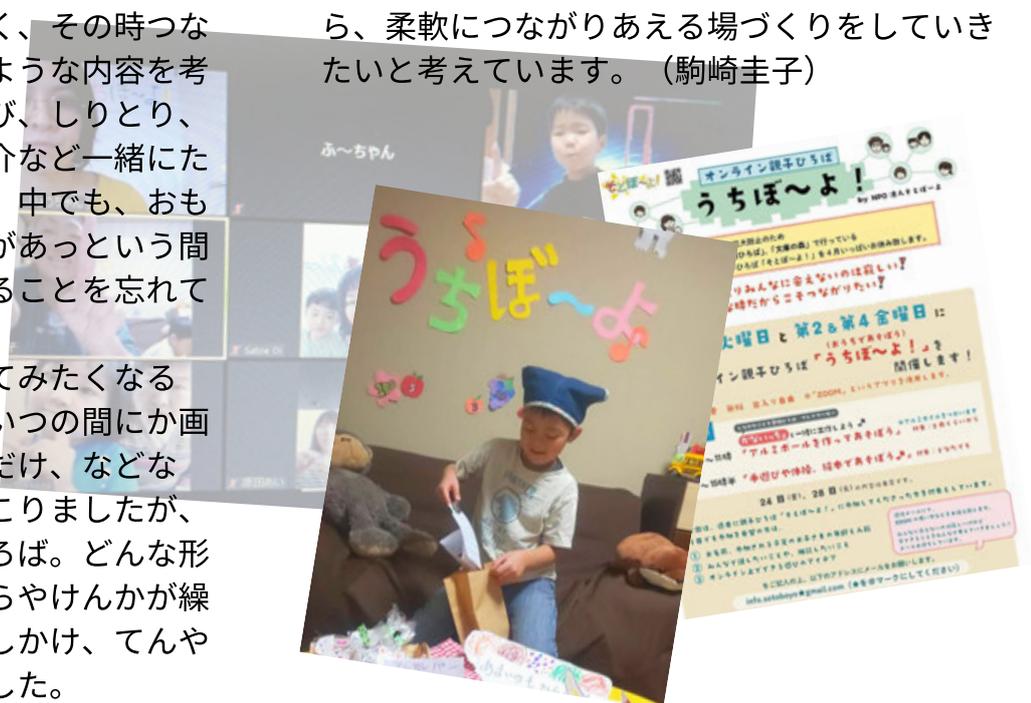
外出の自粛や、緊急事態宣言が発令されていた約2ヶ月間、『うちぼ～よ！』と題して、オンラインの親子ひろばを全16回開催しました。

画面を見てもらうだけではなく、その時つながっている体感を大切にできるような内容を考えました。体操、ふれあいあそび、しりとり、絵本やシアター、おうち遊び紹介など一緒にたくさんのおもしろいことを楽しみましたが、中でも、おもちゃ作りやあそび作りは、時間があつという間にすぎ、親子でオンラインであることを忘れていた場面もありました。

一方で、画面のボタンを押してみたくなる子、兄弟での場所の取り合い、いつの間にか画面の向こうにいるのはお母さんだけ、などなど、想定外のことたくさん起こりましたが、そこはそとぼ～よらしい親子ひろば。どんな形での参加もありですし、いたずらやけんかが繰り返されれば、画面からも話しかけ、てんやわんやも楽しみながら開催しました。

私たちスタッフも参加者につながることで癒される時間でもあり、人と人がつながりあって子育てしていく安心を実感できました。

今後も、新しい生活様式とすり合わせながら、柔軟につながりあえる場づくりをしていきたいと考えています。（駒崎圭子）



講演会

野井真吾氏講演会「光・暗闇・外遊び」

～こどものからだの”おかしさ”を科学する～

2019年10月27日 きゅりあん第4講習室にて日本体育大学の野井真吾先生による講演会を行いました。近年にみられる、子どものからだと心のおかしさにはどのような理由があるのか？生活環境によるメラトニン分泌の特徴や、あそび方による大脳活動の研究データなどを用いて説明して頂きました。

昼間は光が当たる場所で過ごし、夜は暗闇を意識すること、わくわくドキドキ夢中になったり、興奮できるようなあそびの取り組みをすると質の良い睡眠につながるということ。外遊びの大切さをあらためて確信した会となりました。

ステイホーム期間中の過ごし方も、この講演内容が助けになりました。（加藤文字子）

品川区の小学校で「放課後の遊びや過ごし方の調査」を実施

2019年11月、品川区4校の小学校にご協力頂きアンケートを実施致しました。

予想はしていましたが、**5割の子**どもが「平日外で一日も遊んでいない」という状況が明らかになりました。「外であそぶより、なかで遊ぶほうが好き」では、**6割近くが肯定的**でした。

気になるコロナの影響による子ども達の生活の変化として、近視予防フォーラムの緊急事態宣言後の調査では、前年度より**外遊びの時間が4割以上短縮された**という報告もあります。

「子どもがもっと遊べる品川」を目指して、参加者と一緒に考える講座を開催。

立正大学経済学部公開講座として、しながわパパママ応援アプリ「こうえんしょうかい」の取り組みの報告と、「放課後の遊びや過ごし方の調査」の結果報告、品川区の地域毎に、身近にある公園や遊び場、公園の禁止事項などを参加者同士で確認し合うワークショップを開催しました。

自分たちの住んでいる地域を改めて見てみると、意外と品川には遊ぶ場はあるが、大人の意識や思い込みが外遊びのブレーキになっているのではないかという意見が多く聞かれました。

そとぼーよの活動紹介



みんなで作る親子ひろば「そとぼ〜よ！」

@しながわこども冒険ひろば

場所：しながわこども冒険ひろば
(しながわ区民公園内)

開催日：毎週火曜日 10:30~14:00

(祝日・夏休み・冬休み・春休みを除く)

参加費：無料



みんなで作る親子ひろば「そとぼ〜よ！」

@文庫の森

場所：文庫の森公園

(品川区豊町1-16-23)

開催日：毎月第2&4金曜日 10:30~14:00

(祝日・夏休み・冬休み・春休みを除く)

参加費：無料



新事業！

あそびの出前 in 旗の台公園

(荏原地区外遊モデル推進事業)

場所：旗の台公園

(品川区旗の台5-19-9)

開催日：水曜・日曜日 10:30~17:00

(2020年9月~2021年2月、月4回不定期開催)

参加費：無料



NPO法人そとぼーよ

私たちの活動を理解し、一緒に活動してくれる仲間を募集しています。

事業拡大に伴い、たくさんの仲間を求めています！ぜひ一度、私たちの活動場所に遊びにきてみてくださいね。

〈入会案内〉

正会員年会費(個人) 5,000円

※総会での議決権あり

支援会員年会費(個人) 1口 3,000円

賛助会員年会費(個人・団体) 1口 10,000円

事務局

〒142-0043

東京都品川区二葉2-2-13

Tel: 090-9824-0903

E-mail: info@sotobo-yo.org

Web: https://sotobo-yo.org/

年会費・ご寄付はこちらへ
城南信用金庫 大井支店

(普) 872792

トクヒ) ソトボーヨ